



林業とくしま

「木づかい」は誰でもできるエコ活動
みんなで防ごう地球温暖化!



木村正裕徳島県副知事を囲む徳島県林業功労者他の方々（山と木と緑のフェア2008にて）



No. 286

2008・10



もくじ（林業とくしま286号）

◇私の森づくり.....	2
木づくりは愛情から ・阿波市 平島克美さん	
◇がんばる若手リーダー.....	3
・佐野椎茸生産組合長 久保信二さん	
◇現地だより.....	4
・東部圏域区（徳島） ・南部圏域区（美波） ・西部圏域区（美馬）	
◇林政の窓.....	6
・「林業飛躍プロジェクト」の展開について	
◇特集.....	8
・未来を守るとくしま森林づくり表彰	
◇森林林業技術情報.....	11
・システム収穫表(ライクス)について	
◇県産材の需要拡大に向けて！.....	13
・「徳島すぎC材・MDF活用協議会」を設立～林地残材を有効活用～	
◇県林業改良普及協会だより.....	13
・林業に関する最新図書の紹介	
◇県林業研究グループ連絡協議会だより.....	14
・第14回中国・四国林業グループコンクール ・全国林業研究グループ連絡協議会の創立50周年記念式典	
◇阿波だぬき.....	15
◇広告.....	16

「私の森づくり」 木づくりは愛情から

阿波市

平島克美さん



のために山に行かれており、山に行くことが楽しくて仕方がないそうです。

平島さんの所有森林は二十数ヘクタールで、市場町や美郷、木屋平など十九箇所点に点在しており、一箇所が一反から七町歩まであります。そのほとんどがスギ、ヒノキの人工林ですが、一部ケヤキやカヤなどの広葉樹もあります。人工林の林齢は二十年生から六十年生まであり、枝打ちや保育間伐はほぼ終わっています。これからは、間伐を中心に施業を行っていかれます。

氏の森づくりは、無節の芯持通柱や木肌の美しさ、木の香りを生かした造作材となる大径材を生産することと、木の良さを生かした家づくりで役立ててもらいたいと愛情を持って木を育てられています。

山が好きで木を育てるのに労力を惜しまない方で、ヒノキの枝打ちは五年生ぐらいから始め、毎年成長に

応じて八mまで行い、枝打機も使用されており、また除間伐も同様に行っています。間伐材については引張りだこやウインチで搬出し、自宅など新築の折りに利用されています。また歩道の草刈りや補植などもされ、林内は下層植生が繁茂し、十分管理された森林になっています。そして研究熱心な方で、土地の悪いヒノキ林で施肥を行ったり、上高二号を試験植栽したり、作業道や搬出方法など研究に県内外に勉強に行かれたりしてあります。

木は子育てと同じで木の成長が愛おしく、愛情を注いだ木を伐採することは身を切られる思いだと言われますが、谷に水が流れる環境に戻したくて植林をされ

ておられます。

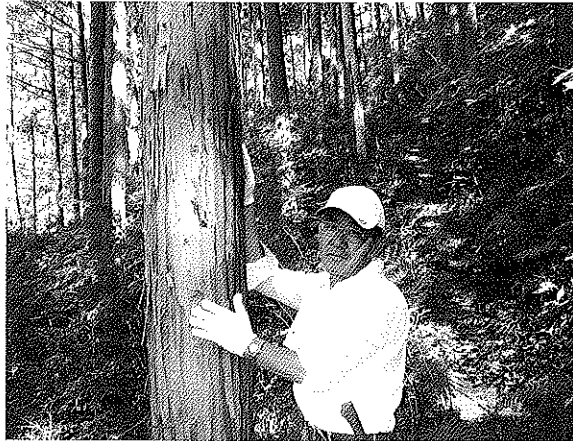
今後も枝打ちや間伐、択伐を繰り返し、隣接する道路を利用して、通柱材搬出と大径木の生産を行っていきたいそうです。

山を愛し、木を愛し、森林を守り育てること。これが氏の原点であり、今後も理想の森づくりに向けて頑張っていたきたいと思います。

東部農林水産局（吉野川）

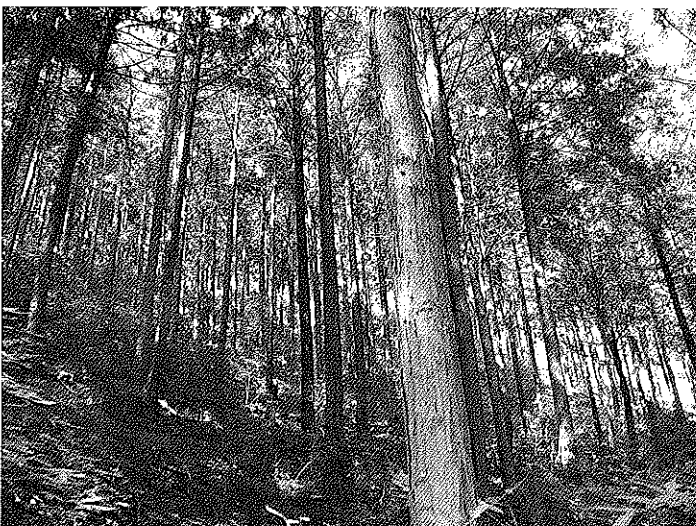
林務担当

主査兼係長 豊原 広之



今回は、阿波市阿波町で農林業を営まれている平島克美さん（六十才）をご紹介します。

平島さんは、十一年前にそれまで勤めていた会社を退職されて、家業を継がれましたが、若い時からお父さんと一緒に山仕事をされており、現在は農閑期の秋から春にかけて、五十日ほど木の成長を見たり手入れ



平島さんの森林

がんばる若手リーダー

佐野椎茸生産組合長 久保信二さん

残暑の続く8月の終わりに、徳島県西北端に位置する三好市池田町佐野の森林内に、ほだ場を設置し原木椎茸生産に励む、久保信二さんを訪ねました。

久保さんは佐野地区出身の43才。隣町の四国中央市（合併前は川之江市）にある精密機械製造会社勤務から26才の時、父親が経営する農林業の後継者に転身しました。

当時地元では、乾し椎茸生産が盛んに行われており、ピーク時には、現在の4倍以上の生産量（現在組合の年間総生産量は約3トン）が有り、生産者も多くいたそうです。

その様な環境の中、農作業を学ぶため、3年程様々な研修等に参加して知識や技術を習得し、佐野地区の若手リーダーとなりました。現在は佐野椎茸生産組合長として活躍しています。

組合の年間活動ですが、6月頃にホダ場研修会（今年は7月）を行い、今年は久保さんを含めた7名の組合員のホダ場を巡回し植菌後の菌糸の生長を確認して、今後の作業について検討しました。特にこの佐野地区は水が少なく、少ない雨水を有効に利用する方法として、天地返しや、斧等で原木に傷を付け、そこから散水効果を得る作業の必要性等についての実技を交えた研修会となりました。10月は中山道草刈整備（組合員の4～5軒）や、池田中学校の授業の農林業体験学習の講師（組合員3名で対応）を行っています。12月にはしいたけ祭り（やまびこ会主催：参加者約1,000名）の後援及び販売支援を行い、祭りを盛り上げています。また2年に一度、乾燥技術の視察研修や、佐野小学校の依頼による乾し椎茸学習を行っています。昨年は学生で考案し調理された椎茸料理がしいたけ祭りで来場者に配られ大盛況だったとの事でした。

今後益々の組合の繁栄と会長のご活躍をお祈りします。

西部総合県民局農林水産部（三好）
林業振興担当 技術主任

細川 光広



久保信二さんと原木椎茸生産を行うホダ場



ホダ場研修会「原木内の菌糸生長の確認」

現地だより

林業普及現場からの情報コーナー

【東部圏区域（徳島指導区）】

高性能林業機械による搬出間伐の収益性について学ぶ

かみやま林業振興会は、神山町を中心に会員約九十人を擁する伝統ある林業研究グループです。

同会は、毎年七月に総会を開催した後、県内外で活躍されている林業関係者を講師に招き、林業や林産業の動向について学習しています。

今年も、地元の徳島中央森林組合が平成十六年度に高性能林業機械を導入して搬出間伐を開始してから四年経つことから、搬出間伐の収益性について学ぶこととしました。

当日の講演会は、会員のほか、町内の森林所有者にも広く呼び掛けて行いました。

講師は、県林業普及指導職員が務め、平成十九度の徳島地区の搬出間伐の実績を分かりやすく紹介しました。

その概要は、次のとおりです。

間伐材の販売単価は、間伐事業地により異なり、一立方メートル当たり安いところで八千円、高いところで一万二千元、平均して約一万円でした。また、一森林所有者の施行地面積は、一箇所のみ一三ヘクタールありましたが、その他は、全て四ヘクタール以下であり、一ヘクタール以下もかなりありました。

一ヘクタール当たりの間伐材の搬出材積は、七十立方メートル前後であり、森林所有者の方が気になる手取り収入は、四十五年生以下の森林の場合で、補助金を含めると、搬出材積一立方メートル当たり少ないところ千六百円、多いところで五千四百円、平均すると約四千円でした。

また、一ヘクタール当たりでは、少ないところで九万円、多いところで五十二万円、平均すると約二十七万円でした。

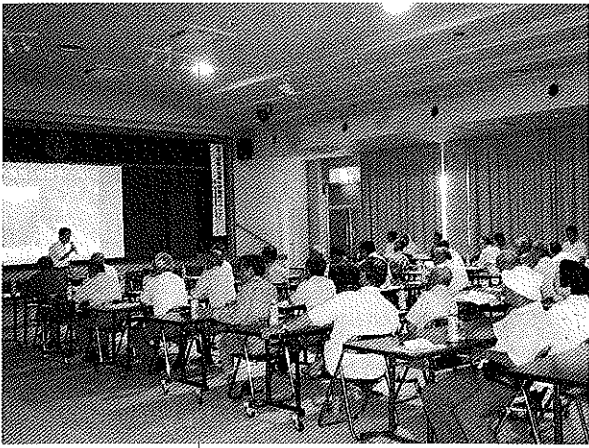
搬出間伐に適した森林は、林令四十年生以上の大きい木の林、一ヘクタール以上のまとまった面積、作業道があるか、又は開設できる場所、作業道の延長は五百メートル以下、公道に四トン以上のトラックが入るところが望ましいと言えます。

間伐してもお金にならないと嘆く前に、一度、プロに相談してみてもいかがでしょうか。

東部農林水産局（徳島）

林業飛躍プロジェクト担当

主査兼係長 徳永 章



【南部圏区域（美波指導区）】

「作業手順書」づくりで
労災を未然に防止しよう！

南部局で林業労働安全

衛生研修会を開催

南部県民局では、林災防阿南支部、阿南労働基準監督署と連携しながら、林業労働災害の防止に向けた取組を進めており、平成二十年八月二十日、第一回目の「林業労働安全衛生研修会」を開催しました。

当日は、局管内の森林組合や林業事業者から、作業員を中心に関係者百二名が参加し、「作業手順書」の作成について全員が主体的に活動する、いわゆる「ワークショップ形式」という新しい試みで行いました。

「作業手順書」とは、作業を安全で能率的に行うための基本的な手順を定めたもので、事業者が作成することが法令で義務付けられています。

今回は現場作業に従事する者がその作成に直接参加することで日常の業務を振り返り、さらに他の事業者の作業員との情報交換を通じて、より安全に作業を行うための手順を再確

認してもら
うというこ
とを狙いと
しました。

日頃、刈

払機やチェ

ンソー、

バックホー、

プロセッサ

などを操作

し、現場作

業に習熟し

た参加者も、

自分が意見

を出し全員

で協議しな

がら一つの

ものを作りあげていく、という作業

には最初戸惑いもありましたが、講

師先生の指導を仰ぎつつ、各班の

コーディネイトにあたった普及職員

といっしょに知恵を絞り汗をかきな

がら、最後にはより現場に適した手

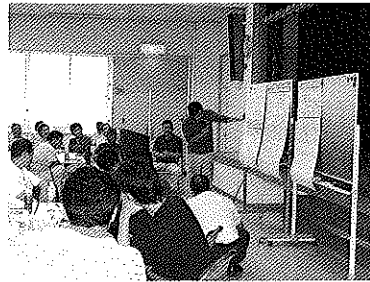
順書を作りあげました。

この「作業手順書」は、今後の作

業に活用してもらうため、整理した

ものを各事業体や作業員に配布する

ことにしています。



今回の研修会が日頃の作業の点検
と今後の林業労働災害の防止につな
がることを期待しています。

南部総合県民局農林水産部（美波）

林務担当 主査兼係長 井坂 利章

【西部圏区域（美馬指導区）】

日本初「薪」の ブランド化を目指せ！！

美馬森林組合が北岸地域の広葉樹
林を活性化させるために、昨年度よ
り「薪」生産事業を開始するとの相
談があり、また一方で、林業家であ
り林業経営士の大泉久繁氏（美馬市）
より「薪の燃焼時間や熱量を表示で
きませんか？最近「薪」を売ってい
るのですが、消費者から問い合わせ
が有るんです。何か良い対応はでき
ませんか？」との問い合わせがあり
ました。

このことが切っ掛けで、管内の
「薪」生産の実情について調査対応
を行う事としました。

美馬地域は、古くから吉野川を利
用した物資の運搬により、徳島市内
や香川県への薪炭の供給が盛んに

こなわれていました。

しかし、燃料革命により薪炭の利
用が激減し、それに伴い里山林の利
用が少なくなっている様です。

「薪」の生産販売者は、薪おじさ
ん（榎の木本舗薪太郎・剣実業で、
これらの事業体は美馬森林組合と
もに販売ルートを確立し実績を上げ
ている状況ですが、規格の統一や樹
種が様々であり買い手市場の感があ
ります。

また、昭和四十年頃から実施され
たクヌギ造林は五〇〇ヘクタールに
達しているのですが、原木椎茸生産
者の高齢化や菌床椎茸生産の普及に
伴いクヌギ林の伐採による萌芽更新
も減少しています。

これらを踏まえ、本年度より新た
な地域の取り組みとして
未利用資源を有効活用し、
里山林の健全育成および
山村の活性化をねらうべ
く、吉野川（美馬）流域
林業活性化センターの下
に、個人薪生産販売者と
美馬森林組合のネット
ワーク化を図り性能表示
をした「薪」を販売し

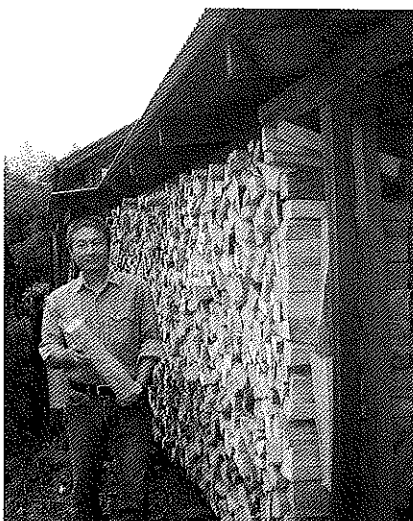
ブランド化を目指すこととしました。

そこで活性化センターとしては、
山村再生プラン事業、森林・地域資
源を活用した新たな産業（森業・山
業）づくりタイプ（財都市農山漁村
交流活性化機構）に応募し審査の結
果、優良プランに選定されました。

今後は、山村再生プラン事業の実
施による、消費者アンケート・薪の
規格（寸法）の検討を行い統一基準
の策定を行うと共に、徳島県立工業
技術センター、徳島県森林林業研究
所、民間試験所の協力を得て、年度
末には全国初の「品質表示薪」の販
売を行います。

西部総合県民局農林水産部（美馬）

林業振興担当 主査兼係長 華岡孝彰



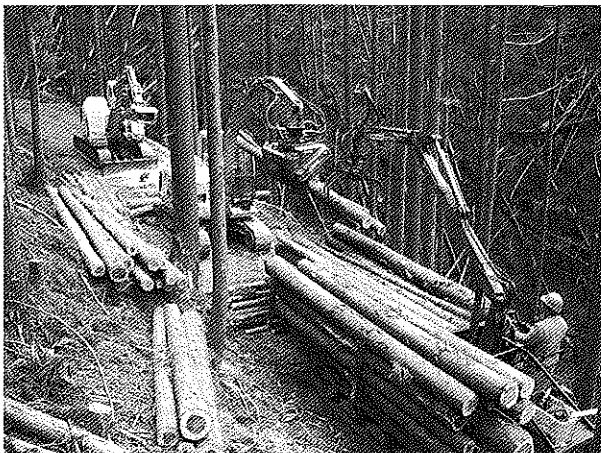
大泉久繁氏 S32.6.25生まれ
林業経営士

榎の木本舗薪太郎 <http://www.makitaronet/>

「林業飛躍プロジェクト」の展開について

林業飛躍プロジェクト推進室 プロジェクト担当 主査兼係長 鎌倉 満行

1 はじめに



平成19年度から開始した「林業飛躍プロジェクト」は、平成22年度の間伐材の生産量を10万立方メートルにすることを主目標に掲げ、「川上から川下まで」が一体となった木材の生産・流通・加工体制の整備を推進し、間伐材の生産力の増強とその利用拡大を進めております。

間伐材の生産現場である川上では高性能林業機械の導入や作業道の開設、作業班（森のエキスパート）の育成、川下では、乾燥施設、プレカットや合板製造施設等の整備を実施するとともに、間伐材を「根元から梢まで」利用できる体制づくりを展開中です。

2 現状と課題

平成19年度末の実績（平成17年からの累計）として、川上では、高性能林業機械が18セット導入され、その担い手である「森のエキスパート」が94名育成されております。

川下では、合板利用のための新たな施設整備により、直径13～18cmの小丸太の合板利用が可能となった他、MDF工場にチップヤードが増設されるなど、端材等を利用する体制も整いつつあります。

この結果、間伐材の生産量（19年単年度）は68,216 m^3 となりプロジェクトの効果が徐々に発現して参ったと考えております。

しかしながら、平成19年度間伐材生産数量の内、「新間伐システム」での生産量は37,111 m^3 となっており

全体の数量の約50%にしか到達していない事や、合板への供給量の拡大など、一層の間伐材の増産のための取組が必要となっております。

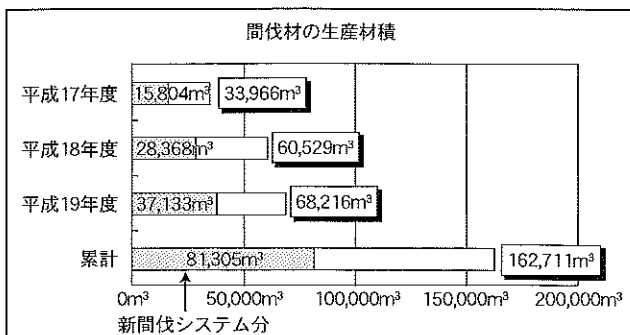
その対策の一つとして現場で間伐材の生産を実施している高性能林業機械のこれまで以上の稼働率の向上を図る取組が必要となっております。

これは間伐材の生産活動の時期が秋期から冬期に集中するために雪などの天候に左右されるほか、作業スケジュール・労務管理が徹底されて

いなかった点などが影響し円滑な林業作業が実施できなかった事などによると思われるので、事業体全体の執行体制や管理体制を再点検・整備する事が急務となっております。

3 具体的な対策

その課題解決の方策として平成20年度より圏域・事業主体別（高性能林業機械）に目標数値（間伐材生産）を設定し、そのための団地の設定、作業道の開設、伐採・集材計画の樹立、事業の精算まで作業工程



に合わせた無理・無駄のない具体的な「間伐システムの稼働計画」を樹立し、これに基づき本年5月から8月までの間に事業体と県との間でヒアリングを実施させていただきました。

ヒアリングでは円滑な事業実施の確認だけでなく、効率性の検討などにより「森林所有者にどれだけ還元できるか」なども含めて確認させていただき、その結果「間伐システム」により約5万6千㎡（8月31日時点）の間伐材生産の計画が樹立されています。平成20年度の目標数量の8万㎡を達成するために新たな事業計画の策定や樹立された計画が確実に実行されるよう今後とも連絡調整を図ることとしております。

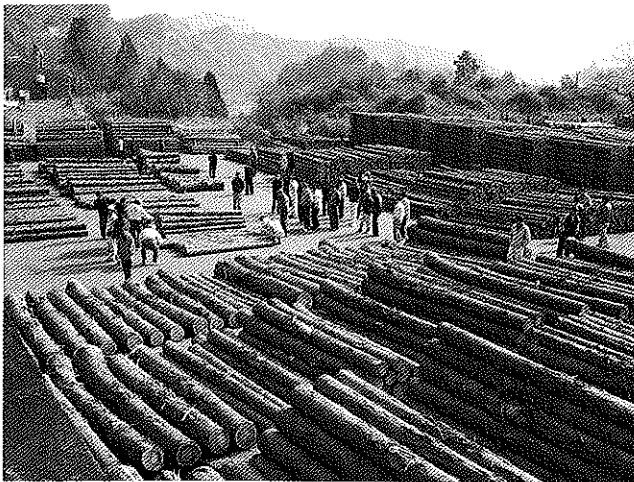
又、事業完了後も設計と実績の違いの課題検討や計画の基礎となる現場調査の精度を上げるために昨年度作成した「搬出間伐・設計マニュアル」等を活用し、県、事業体共に現場での検討を重ね、森林所有者からも信頼される見積りが実施できる人材育成も図る事としております。



4 今後の展開

今年7月には低質材の利用拡大を図るなど「徳島すぎC材・MDF活用協議会」が設立されるなど「根元から梢まで」の利用体制が整備されています。

このため、川下側の旺盛な需要に対して川上側がその要求に応え、木材の安定供給を実施して行くことがこれまで以上に求められて参ります。今後も先述した事業執行体制の整備の他に増産に必要な「高性能林業機械」の整備や「森のエキスパートの養成」など「林業飛躍プロジェクト」で推進してきた重点事項



も徳島県林業施策の核として積極的に推進することとしております。既に皆様ご存じかもしれませんが、京都議定書に基づく森林による二酸化炭素吸収量の目標を達成するため、「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法（平成20年5月）」が制定されています。この法律は本年度から平成24年度（第一約束期間の終期）までの間に、間伐等の森林整備を強化することを目的とした法律であります。それに基づき現在、県レベルでの「基本方針」、地域での具体的な内容を記した「特定間伐等促進計画」を策定中であります。この中でも「林業飛躍プロジェクト」で実施する搬

出間伐の数量を位置づけ計画的な事業展開を図って行くこととしており、この法律の施行に伴い創設された交付金制度を活用するなど、間伐実施に必要な財源の確保にも努めて参りたいと考えております。

5 おわりに

「林業飛躍プロジェクト」の推進につきましては、団地化が重要であり、これをご覧になっている森林所有者の皆様のご理解に基づく事業参加をお願いするものであります。

そのためには、プロジェクトを推進している関係者が森林所有者の皆様の信頼を得る事業成果を挙げていくことが必要であると考えております。事業体内部においても、この取組を現場のみに依存することなく掲げた目標を共有し、その実現に向けて全体で実施されるよう再確認をお願いするものであります。

これからも関係機関との連携の下、林務関係職員が一丸となって取り組んでまいりますので、関係各位の力強いご支援、ご協力を引き続きお願いします。

「未来を守るとくしま森林づくり表彰」

地球温暖化防止の「カギ」は森林
 “そしてそれを担うのは林業担い手”

林業振興課
 普及調整・森づくり担当
 技師 塚 俊 彰

はじめに

「未来を守るとくしま森林づくり表彰」とは、徳島県林業功労者や徳島県森づくりコンクールで入賞された方々へ表彰状を授与し、また徳島県林業経営士等に認定された方々への認定証を交付する行事です。

この表彰行事は、十月四日(土)、五日(日)の両日、徳島市藍場浜公園で開催された「山と木と緑のフェア2008」で、林業功労者表彰式と林業経営士等の認定式が四日に、森づくりコンクール表彰式は翌五日に行われました。

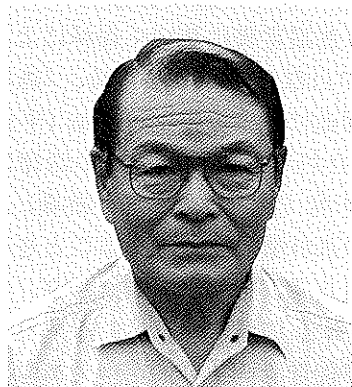
次の方々が本年度の林業功労者と
 して表彰された方々です。

(以下 敬称略・順不同)

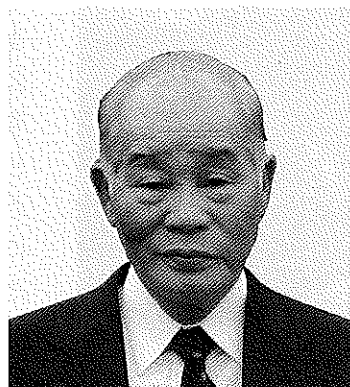
海部郡海陽町	石本 栄
吉野川市	舟井 始
那賀郡那賀町	府殿 長治
名西郡神山町	竹内 浅善



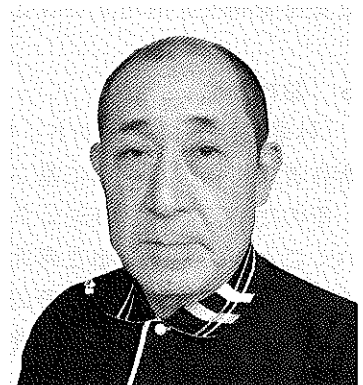
石 本 栄



府 殿 長 治



舟 井 始



竹 内 浅 善

1 徳島県林業功労者表彰

本県林業の様々な分野についての発展に長年尽力され、その功績が特に著しく、他の林業関係者の模範となる方を「徳島県林業功労者」として、表彰するものです。

みなさんのこれまでの多大なる功績に感謝するとともに、今後の更なるご活躍を期待しています。

2 徳島県指導林家・林業経営士・青年林業士認定制度

この制度は、地域において率先して林業の近代化に取り組み、高度な知識・技術・実践力、そして熱意のある方を「徳島県林業経営士」として、また将来の中核的林業経営者となることを期待される方を「徳島県青年林業士」として認定しています。それに加え、特に林業経営・技術等においての地域の模範であり、林業後継者の育成に理解と熱意があると認められる林業経営士に対しては、特に「徳島県指導林家」として認定

し、優れた林業後継者の育成確保に努めています。

次の方々が林業経営士等に認定されましたので、ご紹介します。

これからの益々のご活躍を期待したいと思います。

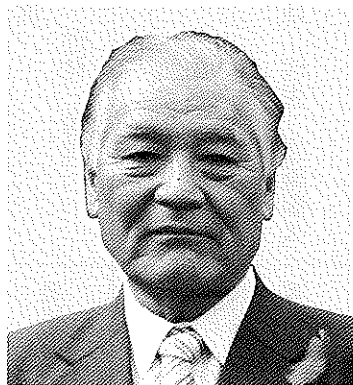
(以下敬称略・順不同)

徳島県指導林家	那賀郡那賀町	廣田長美
那賀郡那賀町	藤田真寛	
海部郡海陽町	工藤増一	
徳島県林業経営士	海部郡海陽町	石本元
海部郡海陽町	高橋正治	
三好郡東みよし町		
徳島県青年林業士		
海部郡美波町	山本友和	

徳島県指導林家



廣田長美



藤田真寛



工藤増一

徳島県林業経営士

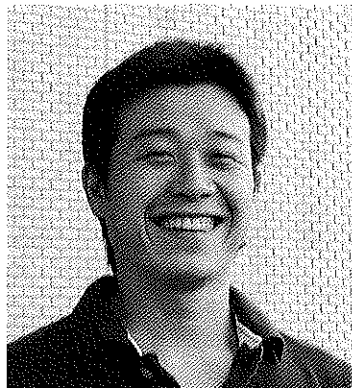


石本元



高橋正治

徳島県青年林業士



山本友和

3 徳島県森づくりコンクール表彰

本コンクールは、地域の模範となる適正な森林整備と効率的な生産活動の普及啓発を推進するとともに、林業者等の林業収入の増大と林業技術の向上を図り、森林の多様な機能の持続的な発揮に寄与することを目的に毎年開催されています。

本年度、森林所有者を対象とした「個人施業の部」、間伐団地の代表者や林研グループなどを対象とした「共同施業の部」、そして事業体の作業班を対象とした「作業技術の部」の計三部門に対して応募のあった十九点について審査した結果、いずれも地域の模範となる優秀なものでした。

厳正なる審査の結果、次のとおり四点が優秀賞（知事賞）に、六点が優良賞（後援団体会長賞）に選ばれました。

(以下敬称略・順不同)

作業技術				共同施業			個人施業			
県林業改良普及協会会長賞	県森林組合連合会長賞	知事賞		県林業改良普及協会会長賞	県森林組合連合会長賞	知事賞	県林業改良普及協会会長賞	県森林組合連合会長賞	知事賞	表彰区分
木頭森林組合 佐村班	三好西部森林組合 水川班	美馬森林組合 福田班	日和佐森林組合 東田班	大戸団地 代表 岩城彰久	山河内・白沢団地 代表 片山喜三郎	平谷団地 代表 近村 福夫	増原 久志	早山 富雄	岸田 義市	入賞者
佐村 朝市	水川 幹夫	福田 里琉	東田 博一	那賀町	美波町	美馬市	三好市	那賀町	吉野川市	備考



優秀賞（知事賞） 美馬市 平谷団地（代表 近村福夫）の現況

受賞されたみなさん、おめでとう
ございました。
おわりに
今回、林業功労者を受賞された
方々のご功績、林業経営士等に認定
された方々のご活躍、そして森づく

りコンクルの入賞事例が多くの林
業関係者に広く認識され、本県の
「林業飛躍」に大きく貢献されるこ
とを期待しています。

「システム収穫表（ライクス）について



森林林業研究所 高度専門技術支援担当 係長 笹山 鉄也

1. はじめに

林業を取り巻く情勢は、林業従事者の高齢化や後継者不足・材価の低迷など依然厳しいものがあります。一方、近年は国産材の利活用が増大し、状況は大きく変化してきております。

また後継者においては、世代交替により林業技術・経営などの知識や経験が不足している方が多く見受けられるところであります。

2. 概要

本県では、素材収穫予測ツールとして、林分収穫表や林分密度管理図を利用してきましたが、専門的知識が必要な上、複雑であるため、これらのツールは将来の収穫予測をするには充分とは言えず、若い後継者に林業に目を向けてもらうためにも、パソコン等を活用した新しいシステム収穫表の導入が急務となっております。

森林所有者の関心事は、自分の山が現在どんな状態で、今後どのように間伐し、どれだけの材が出て、収益がどれくらい見込めるか？また、主伐時の森林をイメージし、生産量を予測するということでした。

自分の山の将来像を、シミュレーションしてシステム収穫表や森林管理表などを出力することで、森林に対する経営意欲が向上し、その結果、経営方針や経営年次計画が見えてきます。

そこで、簡単に操作ができ正確なシステム収穫表を構築する必要から、平成17年度から森林林業研究所の高度技術支援担当が中心となって、全国のさまざまなシステム収穫表を検討し、実用化に向けた取り組みを進めてきました。

その結果、システム収穫表の中でも「ライクス」が最も適合性が高いと思われることから、「ライクス」を使った普及活動を展開していくことにしました。

3. システム収穫表について

システム収穫表とは、「人工林の長期生長予測」を意味しており、今回紹介したライクス（LYCS）とは、Local Yield Table Construction Systemの頭文字をとったものです。

このシステム収穫表「ライクス」の原プログラムは、東京大学の白石教授により開発され、その後、森林総合研究所の松本氏が中心となり、東京大学大学院の中島氏らとともに、ライクスの改良を進めました。

平成20年度からは、普及指導員が中心となって県内の調査データを収集し、組み込むことにより、本県の現実林分により近い「徳島県版ライクス」を開発しました。

「ライクス」の特徴

1. 多様な間伐に対応
(列状間伐や上層・下層間伐にも対応)
2. 長期予測に対応
(従来の収穫表は60年後が一般的だが、100年後の長期予測が可能)
3. 対象林分の現況判定
(標準地調査を実施することで、自分の山の地位・収穫比数・形状比などの情報が得られる)
4. 間伐計画に応じた材価推定
(原木市場等の原木価格を入力することで、伐採時点における収穫量や材価などの自動計算が可能)

4. システムの使い方

使い方は簡単で、自己山林の標準地調査結果や市場価格のデータを入力することで、所有林の状況（地位や収量比数、形状比など）が把握できるとともに、間伐計画などのシミュレーションを何回か繰り返すことで、自分の森林経営方針に合ったシステム収穫表及び管理計画表が作成できます。

○システム収穫表の作成方法（スギの場合）

収穫表作成システムのメインシートに必要事項を記載

- ・対象林分の面積及び主伐林齢を入力
- ・標準地調査のデータを入力（林況判定シートに入力）
- ・間伐量の入力（間伐率または間伐本数を選定）
- ・間伐回数及び間伐林齢の入力
- ・間伐率または間伐本数を入力
- ・間伐方法を指定

システムの実行 → システム収穫表の作成

シミュレーションの作成

（例：現在スギ50年生 1年後及び6年後に列状間伐を実施、間伐率30%・主伐50年後）

収穫表作成システム（メインシート）

林齢 (年)	主伐木 (m³)				間伐木 (m³)				主伐材木合計 (m³)				平均 成長 率 (%)						
	面積 (ha)	材積 (m³)	材種 (種)	材積 (m³)	面積 (ha)	材積 (m³)	材種 (種)	材積 (m³)	面積 (ha)	材積 (m³)	材種 (種)	材積 (m³)							
50	29.3	174	79.1	1120	602	0.71	59					1120	791	602	602	201	12.0	50	
51	29.5	175	79.6	704	436	0.61	61	全層	20.5	936	300	234	166	29.8	185.6				
55	30.4	18.6	57.9	779	475	0.63	61					779	579	475	660	84	12.0	55	
60	31.0	19.0	44.0	546	384	0.64	53	全層	30.6	234	300	175	130	27.8	326.6				
65	33.0	20.0	47.7	546	384	0.66	52					546	44.0	384	705	90	11.7	60	
70	34.1	21.2	39.8	546	384	0.67	52					546	17.7	317	757	65	11.4	65	
75	35.0	21.8	33.6	546	384	0.68	52					546	5.8	336	915	74	10.8	75	
80	35.7	22.4	32.8	546	327	0.60	53					546	35.6	297	846	65	10.6	80	
85	36.3	22.9	37.3	544	369	0.61	53					544	37.9	352	874	52	10.3	85	
90	36.8	23.3	36.7	542	375	0.62	53					542	38.7	375	865	43	9.9	90	
95	37.2	23.8	35.8	540	385	0.63	64					540	39.8	385	816	31	9.6	95	

システム収穫表

○人工林管理計画書の作成方法

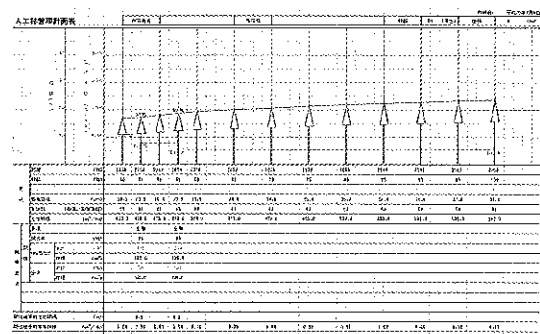
（システム収穫表のデータを図式化したもの）

人工林管理計画書作成システムのメインシートに必要事項を記載

- ・識別名を記入（収穫表の初期値シートと同じ名前）
- ・林齢及び面積を入力

システムの実行 → 人工林管理計画書の作成

人工林管理計画書作成システム（メインシート）



人工林管理計画表

5. おわりに

このシステム収穫表を使って、所有者に森林の情報を提供するとともに、新間伐システム導入による林業飛躍プロジェクトへの支援も推進しています。

そのため、県下に配置されている林業普及指導員にもすでに研修を実施し、今後は、森林組合や林業事業体を対象とした全体説明会を実施し、次いで先導役として森林組合や林業事業体などを選定し、所有者を対象とした普及指導を計画しています。

ゆくゆくは、森林組合や林業事業体の職員・森林所有者にシステム収穫表を活用していただき、自由にシミュレーションできるような体制づくりを考えています。

システム収穫表については、さらに、育林経費と伐採収入との比較検証や、システム収穫表のさらなる精度向上を行い、森林簿や森林施業計画・GISなどの修正・追加などのデータ管理にも利用できるようなシステム作りを目指しています。

県産材の需要拡大に向けて！

「徳島すぎC材・MDF活用協議会」を設立

～林地残材を有効活用～

林業振興課 木材生産流通担当 技術主任 溝口 靖

徳島県産スギの低質材(C材)をMDF(中質繊維板)の原料として安定供給することを目指す「徳島すぎC材・MDF活用協議会」が7月11日に設立されました。

MDFは現在用途が少ない部分であるC材を原料として大量に使用することから、C材の活用が図られます。これにより現状よりも安心して木材の搬出が実施できる体制を支えることができます。このため、現在用途が少ない国産材のC材を「定量」、「定質」、「定価格」等で安定供給をするために、原料の生産コストや流通コストについて検討を行い、安定供給体制を整備することを目的としています。

メンバーは、徳島県森林組合連合会、徳島県木材協同組合連合会、日本製紙木材(株)徳島営業所、エヌ・アンド・イー(株)(MDF製造、小松島市)の4者で、事務局は、徳島県森林組合連合会です。

また県では、平成17年度から間伐材の低コスト搬出を目指した「林業飛躍(再生)プロジェクト」がスタートしており、搬出システムの中心となる高性能林業機械は、スイングヤーダ、プロセッサ、フォワードのいわゆる3点セットで、19年度までの3ヶ年間に県内の森林組合に合計18セットが導入されています。搬出された間伐材の利用対策としては、B材を対象とした「徳島すぎ合板原木出荷協議会」(事務局＝県森連)を設置し、合板工場に出荷しております。今回はそれに続くC材の利用促進を目指した取り組みとして協議会を設置しました。

協議会は、年2回程度開催予定です。具体的な取り組みは2ヶ月に1回程度開催する実務者会議で進めていきます。会の検討テーマはこれまで林内に放置されていた端材等をいかに効率良く搬出するかなどとしております。1回目の実務者会議は9月に開催しました。

現在、エヌ・アンド・イーがMDF製造に利用している国産材は原料の7割程度ですが、同社では今後これを可能な限り100%に近づけていく方針です。昨年度の国産材利用量は約4千㎡で、今年度は1万㎡に増やすことを目指しています。

・徳島県林業改良普及協会だより・

林業に関する最新図書の紹介

林業に関する最新図書の紹介

林業経営力アップ 痛快！人材育成術

著者 京都府日吉町森林組合参事 湯浅 勲

全国の林業関係者の注目を集める日吉町森林組合が、最も大事にしているのが「人材」です。職員一人ひとりがイキイキと自分の仕事に誇りをもって働くことができるようにと、常に心を砕いてきた著者が、これまでの経緯と実践を通して学んだことを本書にまとめられています。

価格 1,995円

関連図書

山も人もいきいき 日吉町森林組合の痛快経営術

著者 京都府日吉町森林組合参事 湯浅 勲

価格 1,995円

(専務理事 船田征二郎)

徳島県林業研究グループ連絡協議会だより

第14回中国・四国ブロック林業グループコンクールの開催

平成20年7月24日、鳥取市とりぎん文化会館において、中国・四国各県の代表9グループによる日頃の活動状況が発表されました。

本県からは三好市井川町の「西井川林業クラブ」が6番目に登壇し、当クラブ設立50年のあゆみとして「山に緑を・田に水を」を合い言葉に、大学の森の誘致、次代を担う青少年の育成、森林整備活動の拡大などクラブの歴史と今後の目標・取組について披露しました。

平成18年度にスタートした、二酸化炭素の吸収源としての森林の機能を、より高めるための国の助成事業であります「森林整備推進支援事業」をいち早く導入し、所有者に対して、地区別説明会・現地実演会を開いたり間伐展示林での研修など、間伐施業の重要性について訴えました。各県代表の発表に負けない、堂々とした内容でありましたが審査の結果、中国・四国ブロック代表には、愛媛県の西予市林業研究グループが選出され、来年2月に東京で開かれる全国コンクールで発表することになりました。



全国林業研究グループ連絡協議会の創立50周年記念式典

全林研は昭和35年に設立され、本年度で50周年を迎えます。その記念事業として、50年史の編纂と記念式典が予定されております。この式典で全国の功労者に対して感謝状の贈呈があります。

県林研からはこの功労者として、長年にわたって当林研の運営にご尽力された元常任理事の武知功氏を推薦しております。記念式典及び通常総会の日程等は次のとおりです。

日時 平成21年2月18日

場所 オリピック記念青少年総合センター

(常任理事 船田征二郎)

「この頃、思ひ出す」

南部総合農政局農林水産部（美波）
技術課長補佐 山根 誠



平成二十年四月から、十数年ぶりに海部郡美波町（旧日和佐町）に勤務している。

早々の四月十日には、国道55号線が大雨により通行止めになるなど手荒い歓迎を受けたものだが、先般八月末にも雨による通行規制が行われた。幸い阿南市福井町から美波町までの間、日和佐道路の開通により迂回路は確保されているが、以前勤務していた頃は大雨による交通規制が実施された記憶はないことから、これも近年の地球温暖化によるゲリラ的な豪雨の影響なのか、と思ってしまう。

森林林業に携わる者にとって、地球温暖化防止に対する森林の役割は非常に大きいものがあると期待するが、それを上回る勢いで温暖化が進行しているとすれば、我々一人一人が日頃から温暖化防止に向けた取り組みを実践していかなければならぬと感じる。

益明けには、美波町で南部県民局管内の林業労働安全衛生研修会が開催され、那賀郡、海部郡そして阿南市から林業に従事する約七十名の参

加者により、熱心な討議が行われた。林業労働者の減少や高齢化が懸念されるなか、参加者の顔ぶれは五十代以上が多く見られたが、中には二十代、三十代の精鋭の若者、また親子での参加もあり、大変心強く感じた。林業の末永い発展を願い、今後の活躍を期待したいものである。

九月には、海陽町内の丁県有林を調査した。そこは二十年程前、大径で優良な材を強度に搬出間伐を行ったいわゆる「なすび伐り」の現場で、当時の担当としてその後の状況が気になっていた所である。間伐取入は得たものの事業終了後は細い材が半数残っている程度で、監視員さん曰く「五年位は成長が止まっていた。」そうであるが、今では根張りもしっかりした立派なスギ林に生長していた。更に驚いたことに間伐後の空間には、シイ・カシ等の広葉樹が生い茂る姿に、森林の持つ旺盛な生命力に畏敬の念を感じたところである。一方で、当時に比べ我が身の体力も少し衰えたかなと思いつつ、林の健全な生育を願いながら山を後にした。

森の掲示板

◇「県民参加の森づくり」を「県民運動」に
そして一緒に「県民参加の森づくり」に参加してみませんか？
平成八年度にスタートした本県の県民参加の森づくりは、県民の多くの方にご参加いただき、これまでに延べ三九〇〇人余りの方に参加していただきました。

一友 近年は森林に対し、地球温暖化を防止する二酸化炭素の固定機能に大きな期待が寄せられるなど、森林への注目度が高まっています。このため、「企業の社会的責任（CSR: Corporate Social Responsibility）」からボランティア活動や緑化活動を支援する企業も増えていますが、こうした動向を踏まえ、森林整備の大きな追い風とするためにも、県民のみならずの森づくり活動への積極的な参加・ご協力が求められています。
なお、平成二十年度の活動計画は次のとおりです。

活動日	活動場所	活動内容	参加人員
十一月八日(五)	上野野有林	間伐・樹皮剥離	六〇名
十一月八日(五)	高井川市柳瀬川カサネアゼツとヒコエ 上野野有林、また上野野有林、樹皮剥離 上野野有林	間伐・樹皮剥離	一〇〇名
十一月八日(五)	高井川有林	間伐	五〇名
十一月十六日(木)	車みよし町有林	間伐・樹皮剥離	三〇名
十一月十六日(木)	柳瀬川有林	間伐・樹皮剥離	三〇名
十一月十六日(木)	大野有林	間伐・樹皮剥離	三〇名
十一月十六日(木)	同江市有林	間伐・樹皮剥離	三〇名
十一月十六日(木)	小松有林	間伐・樹皮剥離	三〇名
十一月十六日(木)	小松有林	間伐・樹皮剥離	三〇名

詳細については、徳島県林業振興課ホームページ「森へ行く」の「森林ボランティア」のページ
<http://www.1green.kokusai.go.jp/forest/volunteer/>
を閲覧いただくか、就くしま森とみどりの会 電話 〇八八(六五二)五四〇六 もしくは徳島県林業振興課 電話 〇八八(六二二)二四八二までお問い合わせください。

林業振興課 普及調整・森づくり担当 佐藤 博 後援
電話 〇八八(六二二)二四五八
FAX 〇八八(六二二)二八六一